

ビンナガ インド洋

Albacore Thunnus alalunga



管理・関係機関

インド洋まぐろ類委員会 (IOTC)

生物学的特性

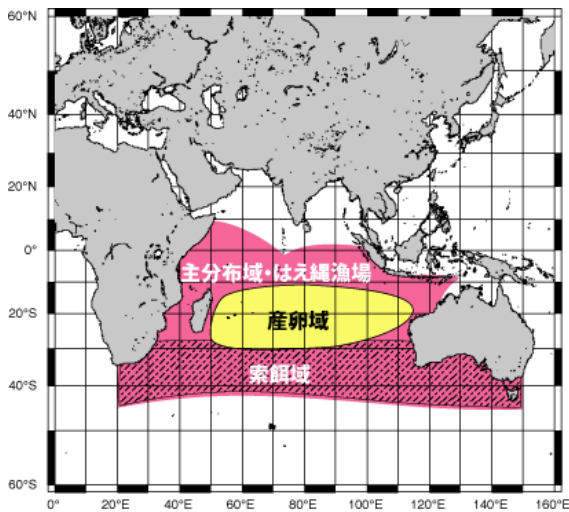
- 最大体長・体重：尾叉長約 1.2m・約 30kg
- 寿命：15 歳以上
- 性成熟年齢：3 歳頃開始、4 歳頃に 50%が成熟
- 産卵期・産卵場：10～1 月・南緯 10～30 度
- 索餌期・索餌場：南緯 30～40 度
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：サメ類、海産哺乳類

利用・用途

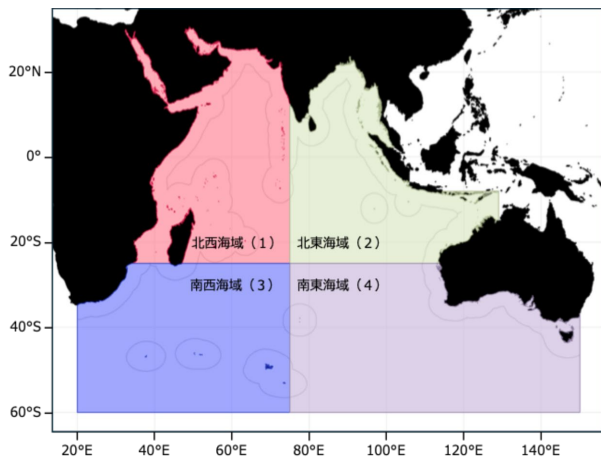
刺身、寿司ネタ、缶詰原料他

漁業の特徴

本資源は、古くからインド洋沿岸島嶼国の伝統的な小規模漁業（ひき縄、竿釣り、釣り、刺網他）の対象となってきた。漁法別の漁獲量割合は、台湾が流し網を行った一時期を除き、概ねはえ縄が総漁獲量の 9 割を占めている。特にえ縄主体の台湾は、1980 年代に全体の 8 割、以降も約 5 割程度を占める一方で、1990 年代初頭からはインドネシアのはえ縄が急増し、2000 年代以降は台湾に次ぐ規模を維持している。



インド洋ビンナガの分布とはえ縄漁場



2025 年の資源評価で使用された海域区分
カッコ内は海域区分に付帯した番号

漁獲の動向

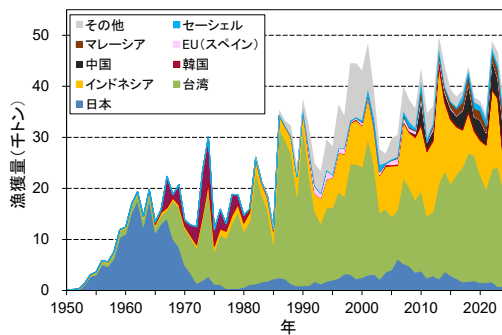
IOTCの公式漁獲量統計によると、統計の始まった1950年の漁獲量は42トンであり、それ以前の漁獲も僅かであったと考えられる。その後、1952年に日本のはえ縄漁船がジャワ島南部海域で操業を開始し、次いで台湾（1954年）、韓国（1965年）が参入したことで漁獲量は増加した。1986年には台湾が流し網漁業により漁獲量を増大させ、全体の漁獲量が3万トンを超えたが、1992年の国連公海大規模流し網漁業禁止決議を受けて同漁法による漁獲は消滅した。1990年以降、スペイン等の現EU諸国を中心とした大型まき網漁業が西インド洋に進出して漁獲量は再び増加した。1998年には約4万トンに達し、以降は増減を繰り返しながらも4万トン前後で推移している。近年は2022年に過去最高水準に匹敵する約4.9万トンを記録したが、2024年は約3.6万トンであった。

資源状態

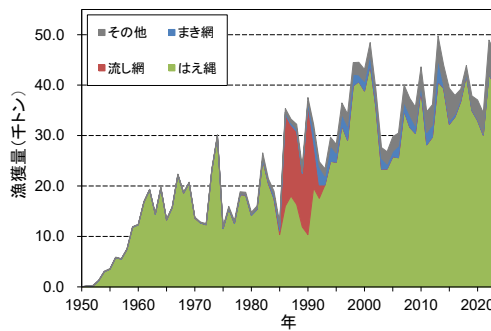
最新の資源評価は、2025年7月にIOTC温帯まぐろ作業部会が統合モデル Stock Synthesis 3 (SS3)で1950～2023年までのデータを用いて実施された。資源量指数に日本・台湾・韓国のはえ縄統合標準化CPUEが採用され、漁獲対象海域の西部海域の南北2つの資源評価モデルが使用された。推定された産卵親魚量 (SSB) は北西海域及び南西海域ともに1950年から減少傾向を示したが、北西海域では1980年代と1990年代に、南西海域では2010年に一時的な増加が見られた。しかし、2010年以降はいずれも減少傾向を示した。最新(2023年)の産卵親魚量 (SSB) は最大持続生産量 (MSY) 水準 (SSB/SSB_{MSY}) の1.33 (95%信頼区間: 0.90～1.78)、漁獲死亡係数は同水準 (F/F_{MSY}) の0.97 (95%信頼区間: 0.52～1.42) と推定され、乱獲状態でも過剰漁獲の対象にもなっていないと判定された。同年12月のIOTC科学委員会で、これらの資源評価結果が承認された。

管理方策

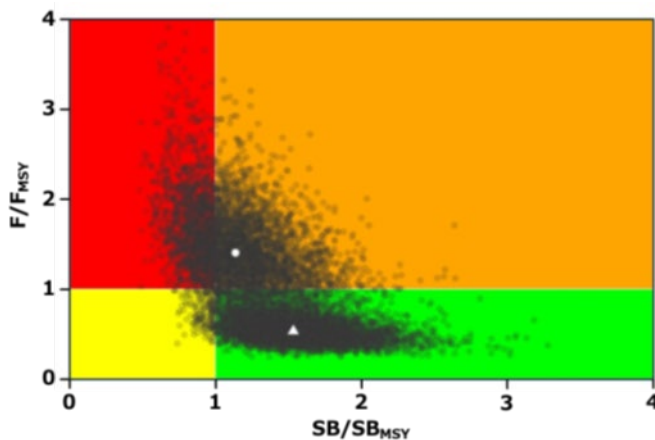
IOTC魚種に共通の管理措置（漁船数制限、データ提出義務）、オブザーバープログラム、暫定リファレンスポイント等）がある。



インド洋ビンナガの国・地域別漁獲量 (1950～2024年)



インド洋ビンナガの漁法別漁獲量 (1950～2024年)



インド洋ビンナガの資源状態を表す KOBÉ プロット
横軸と縦軸はそれぞれ MSY 水準に対する産卵親魚量 (SSB) 及び漁獲死亡係数 (F)。白丸は北西海域、白三角は南西海域の2023年の推定値で、黒丸は1950～2023年の両海域の推定値を示す。

ビンナガ（インド洋）の資源の現況（要約表）	
世界の漁獲量 （最近5年間）	3.4万～4.9万トン 最近（2024）年：3.6万トン 平均：4.1万トン（2020～2024年）
我が国の漁獲量 （最近5年間）	767～1,704トン 最近（2024）年：905トン 平均：1,297トン（2020～2024年）
資源評価の方法	SS3による解析
資源の状態 （資源評価結果）	MSY：4.4万トン、SSB _{MSY} ：2.7万トン SSB ₂₀₂₃ /SSB _{MSY} ：1.33 F ₂₀₂₃ /F _{MSY} ：0.97 2023年の資源状態は乱獲状態でも過剰漁獲の対象でもない。
管理目標	MSY=4.4万トン
管理措置	共通項目： 漁船数制限（03/01）、 データ提出義務（15/01及び15/02）、 オブザーバープログラム（25/06）、 暫定リファレンスポイント（15/10）他。
管理機関・関係機関	IOTC
最新の資源評価年	2025年
次回の資源評価年	2028年

* 2023年までのデータを使用した資源評価の結果に基づく